

# ぎふ感染症かわら版

令和6年9月20日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

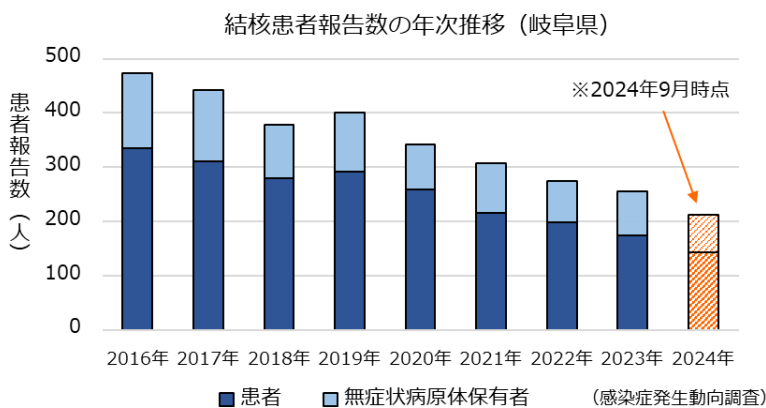


## 9月24日～9月30日は「結核・呼吸器感染症予防週間」です！

結核は決して過去の病気ではなく、今でも全国で年間1,500人以上の方が命を落としています。この機会に、結核について正しい知識を身につけ、患者数が今後減少するよう早期発見と感染予防にご協力をお願いします。

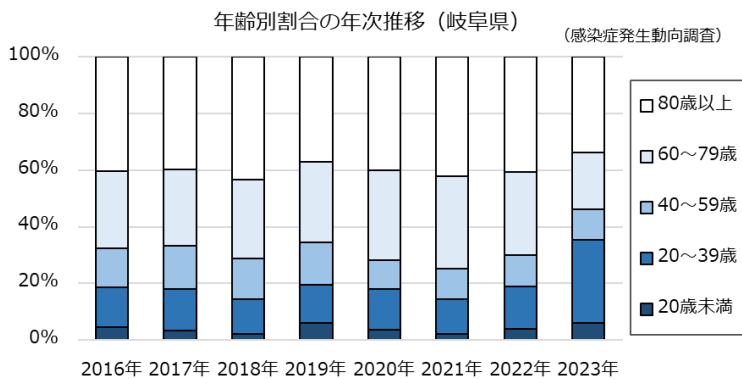
### 近年の県内状況

- 患者報告数の推移：減少傾向ながらもまだまだ患者報告数は多い。



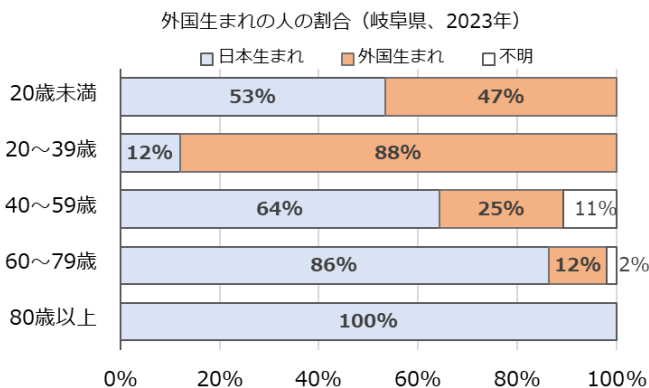
岐阜県の患者報告数は、2016年以降、右肩下がりの減少傾向でしたが、2024年は9月時点で既に210人以上の報告があり、患者数は昨年よりも多くなることが見込まれます。

- 年齢別割合の推移：20～30歳代の占める割合が増加している。



これまでは60歳以上が全体の6割以上を占めていました。しかし2023年は20～39歳がほぼ3割となり、今後、こうした若い世代の患者が増加する可能性もあります。結核は、決して高齢者がかかる病気ではないことにご注意ください。

- その他の傾向：40歳未満は外国生まれの患者が多い。



近年、外国出身者の割合が特に若い世代で増えています。結核まん延国から留学生や技能実習生として来日する人の増加が大きな理由です。また、日本で健康診断を受ける機会が少ないことも、発見の遅れにつながると指摘されています。

## 結核のまん延を防ぐために

結核のまん延を防ぐためには、早期発見が何より大切です。たんのからむ咳や、微熱やだるさが2週間以上続くときは早めに医療機関を受診しましょう。

また、症状がなくても、学校や職場、地域の定期健康診断をきちんと受けましょう。



結核を早期に発見することができれば、本人の重症化が防げるだけでなく、大切な家族や友人などへの感染の拡大を防ぐことができます。

### 結核の基礎知識

#### どうやって感染するの？

重症の結核患者の咳などで結核菌が飛び散り、周りの人がそれを吸い込むことで感染します。感染源となるのは、結核を発病している人のうちたんの中に菌を出している重症の患者です。軽症でたんの中に菌が出ていない患者や、治療の効果で菌が出なくなった患者は、周りの人にうつす恐れはありません。

#### 感染したらみんな発病するの？

感染しても必ず発病するわけではなく、多くの場合は免疫力により結核菌の増殖が抑えられ、休眠状態になります。

しかし、免疫力が低い状態で感染した場合などは、2年以内に発病します。また、感染後すぐに発病しなくても、年月がたって免疫力が低下したときに休眠状態の結核菌が再び活動を始め、発病することがあります。

#### 結核と診断されたら？

結核と診断されても、薬をきちんと飲めば治ります\*。

しかし、薬を途中でやめてしまうと、結核菌が薬に対して抵抗力をつけ、薬の効かない結核菌（耐性菌）になってしまうことがあります。

また、結核を発病していなくても感染していることがわかった場合は発病を防ぐために服薬治療を行います。

\*治療費用は公費の助成が受けられます。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

